

とりだい病院発 「イノベーション」 「すきのこ保育所」の穏やかな夜 ルポ・院内保育



経済・観光と 新型コロナウイルス 「とりりんりん」完全マニュアル

病気にはかかるない、あるいは怪我をしない

という人はいません。どんな人にとっても医

療は生活に切り離せない。しかし、敬遠した

り、垣根が高いと感じる人も少なくありません

。そこで、医療の世界を「いかに知つても

らうか」→「いかに知る」→「カニジル」と

なりました。

もちろん、とりだい病院のある鳥取県の名

产品、「蟹のだし（味噌）汁」にも掛けています。

蟹汁のように、皆さまに愛される存在であり

たいという思いを込めました。

我々が第一にこだわるのは「ファクト」です。

医療に関して、不正確な情報が世の中には

溢れています。短く、分かりやすい言葉は人々

の心に突き刺さりやすい。しかし、現実はそ

う簡単ではありません。分かりやすくするた

めに、大切なものを多くそぎ落としています。

医療は、科学的に証明されていることとそ

うでないことを完全に二分できない世界です。

極力、ファクト＝エビデンスを重んじていて

も、そのファクト自体がひっくり返ることも

あり得る。大切なのは、愚直に取材し、なる

べく確かな文献に当たり、真摯に考える――

それが我々、カニジルの姿勢です。

昨日のコロナウイルスに関する報道で「イ

ンフォデミック」という言葉を耳にした方も

多いでしよう。これは情報が感染症のよう

に拡散する状況を指します。SNSなどの発

達により、我々が手にすることの情報は爆発

的に増えました。その中から、いかに正確な

情報を選び取ることが出来るか。生命の危機

にも直結する医学では、その力が特に必要に

写真・中村治

新型コロナウイルスの感染拡大はいまだ収束の兆しが見えない。8月12日時点で鳥取県の累計感染者は21人。これは7人の岩手県に継ぐ少ない数字である。特にとりだい病院のある県西部では感染を抑えているといつてもいい。ただし、一帯の基幹病院であるとりだい病院は、今も厳しい警戒態勢を敷いている。その内側を感染制御部の千酌と上灘に聞いた。

高次感染症センタ

とりだい病院には
新型コロナウイルスを
持ち込ませない

鳥取大学医学部附属病院
感染制御部 看護師長



千酌 浩樹
鳥取大学医学部附属病院
感染制御部 部長

鳥大の人々

なつてきます。カニジルはそのお手伝いとし

て行きたいのです。

米子市出身の経済学者、宇沢弘文は著書の中で「社会的共通資本」を「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置」と定義しました。また「一人一人の人間的尊厳を守り、魂の自立を支え、市民の基本的権利を最大限に維持するために不可欠な役割を果たすもの」とも書いています。

とりだい病院は、医療機関であると同時に、この地域でもっとも人が集まる場所です。「すぐれた文化を展開」し、「人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持」する可能性を秘めているという意味で、まぎれもない「社会的共通資本」であるでしょう。

とりだい病院のある米子市を含めた山陰地方は、「過疎」「超高齢化社会」という日本が抱える問題が凝縮されている場所です。一方、人との温かい繋がり、自然など、都会にはない豊かさがある。問題を解決しつつ、豊かさをどう維持していくか――。先んじて未来の問題を解決できる場所なのです。

新型コロナウイルスは日本社会の変化を促しています。リモートワークならば、住む場所を選びません。都市と別の視線を持つことが、ウイズ・コロナ、アフター・コロナ時代のニューノーマルとなるかもしれません。

ファクト、医療、地域、この三つを柱として、カニジルは、楽天的にこの地域の良さを発信していきます。

カニジル 宣言

鳥大の人々

鳥取大学医学部附属病院
感染制御部 千酌 浩樹・上灘 紳子

03

Contents

Kanijiru vol.5

ヒントは「現場」にある!

とりだい病院発「イノベーション」

来院して3分で登録完了!

とりだい病院オリジナルアプリ「とりりんりん」完全マニュアル

ルポ・院内保育

「すぎのこ保育所」の穏やかな夜

14

ももちゃんとみゅちゃんの「お泊まり」に密着

とりだい病院広報がスラスラ回答

20

大学病院の謎 「教授回診って、何のため?」

20

本は命の泉である

21

とりだい「人生を変えた一冊」渡邊仁美 看護部外来統括マネージャー

21

カニジルご意見箱――カニ箱

21

Tottori Breath 「経済・観光とコロナ克服は二者択一ではない。」

22

編集後記 飛鳥の森より

23

トリビート 写真家 中村治が切り取る、とりだい病院の日常

24

写真 中村治

20

表紙デザイン 三村 漢

21

ページデザイン 矢倉 麻祐子

22

編集管理 吉田 慎吾

23

※ 病院長対談「たすくのタスク」は新型コロナウイルスの影響により今号休載

13

08

に陽性反応した患者44672人のうち、80・9パーセントが軽度の症状だという。8割が軽症だとされていましたが、逆に言えば2割は重篤化するんです。ぼくは30年間、呼吸器内科をやってきましたが、2割も重篤化する肺炎って知らない。ぼくたちからすればとんでもない話なんです」

この論文には年齢別致死率の数字も記されていました。50から59歳までは致死率1・3パーセント。しかし、60から69歳になると3・6パーセント、70から79歳は8・0、80歳以上は14・8パーセントに跳ね上がります。

「若年者は重篤化しないというのはあるかもしれませんとthoughtいました。ただ、ぼくたちは子どもだけを相手にしているわけではない。今の日本では60歳以上って働くエンザと同等、あるいはやや強い程度千酌はこう思ったのだと振り返る。

「これは（中国政府の）本気だ。まだ出てこない情報が山ほどあるに違いない」この時点での日本での危機感は薄かったです。1月末の段階で、日本、タイ、香港などため公共交通機関を一時閉鎖すると発表。多数の中国人が国内外を移動する旧正月—春節を前にして街を閉鎖したのだ。

千酌はこう思つたのだと振り返る。

「これは（中国政府の）本気だ。まだ出たことだつた。アメリカが14日以内に中国本土を訪問した人間の入国を禁止した。アメリカ疾病予防管理センター（CDC）は重要な情報を掴んでいるのかもしない、だからこそこれだけ迅速に行動したのだと感じた。

直後の2月17日、武漢の研究者が

「たまたま私が入った年、看護部長の方針で各病棟独自の強みを作ることになりました。私の病棟では感染対策の強化でした。あなたも活動グループに入つておきなさい、みたいな感じで強制的にメンバーへ入れられました」

1980年代半ばから、メチシリントolerant性黄色ブドウ球菌（MRSA）などの院内感染が報告されていた。MRSAは肺炎、腹膜炎、髄膜炎などの重症感染症の原因となる。

「私は新人だったのでよく分かりませんけれど、当時は耳鼻科の患者さんの痰からMRSAが検出されることが多かったです。そのため感染対策に選ばれたのかもしれません」

感染対策の活動グループでは、勉強会を開き、ニュースレターの発行、病棟内の手順の見直しなどを行つた。感染対策はどの科に行つても必要になるだろうと、

高次集中治療室（HCU）に異動した後も勉強を続けていたという。2007年、とりだい病院内に感染制御部を立ち上げることになり、感染管理認定看護師の資格を取得。認定看護師とは、特定分野に熟練した看護師に日本看護協会が与える資格である。感染管理分野は2001年8月に認定された。上灘は七期生にあたる。

上灘は今回の新型コロナウイルスの一報に接したとき、2009年春の新型インフルエンザを思い出した。

「私は現実路線というか、現実的に考えるタイプ。看護婦に憧れてとかそういうエピソードはなくて、（学校と病院が）家から近かつたこと、そして仕事として

クチンか治療薬の開発しかない。それまで数年間は掛かる、と」

原田が千酌の提案を理解し、全面的に受け入れてくれたことが心強かつた。とりだい病院では、ウイルスと接触する可能性がある医療従事者には空気感染を防ぐN95マスク、防護服の着用を徹底させることになった。

「この感染症が空気感染するかどうか。當時は空気感染する証拠はなかった。しかし、流行りだしてまだ半年も経たない感染症なんです。それに對して、違うウイルスの知見を持って来て、こうだなん上がる。

「若年者は重篤化しないというのはあるかもしれませんとthoughtいました。ただ、ぼくたちは子どもだけを相手にしているわけではない。今の日本では60歳以上って働くエンザと同等、あるいはやや強い程度千酌はこう思つたのだと振り返る。

「これは（中国政府の）本気だ。まだ出たことだつた。アメリカが14日以内に中国本土を訪問した人間の入国を禁止した。アメリカ疾病予防管理センター（CDC）は重要な情報を掴んでいるのかもしない、だからこそこれだけ迅速に行動したのだと感じた。

2017年時点では鳥取県は人口の3・4パーセントが65歳以上という高齢県である。このウイルスが万が一、県内で広がつたら大変なことになる。一帯の基幹医療機関である、とりだい病院として徹底的に策を講じる必要があった。千酌は病院長の原田省と話し合つことにした。

「私は本当に悲観的なことしか言いませんでしたね。これはまずいですよと。ロツクダウンまで行くかどうかは分からなかつたけれど、普通じゃないものが流行ろうとしている。これを克服するにはワ

未知の感染症はもう克服したという風潮があつた

千酌は1960年に鳥取市で生まれた。父親の仕事の関係で中国地方を転々とし、米子東高校から鳥取大学医学部に入った。

「子どもの頃から生物、図鑑が大好きで



感染症指定医療機関となつたとりだい病院

代表的な感染症の一つ、インフルエンザは、ウイルスが体内で増えて熱や喉の痛みの症状を引き起こす病気だ。気道で局所感染し、強い咳を伴うため、多数の人々に感染が広がる。遺伝子に変異が起こりやすいため、以前の感染で作られた免疫抗体では対応できず、毎年流行する



生物学をやりたかった」

2001年から2003年まで千酌はワシントンDCの郊外にあるアメリカ国立衛生研究所に留学している。

「そのとき丁度、ヒトのゲノムが解析されたんです。それからがん治療が急に変わっていました。そこでヒトの色々な細胞の基礎研究をやりました。最近まで、がんの研究と感染症の二刀流だったんです。

米子市生まれの上灘は、鳥取大学医療技術短期大学（現・鳥取大学医学部保健学科）を卒業後、とりだい病院に入職した。

「私は現実路線というか、現実的に考えるタイプ。看護婦に憧れてとかそういうエピソードはなくて、（学校と病院が）家から近かつたこと、そして仕事として

在が、看護師の上灘紳子である。

米子市生まれの上灘は、鳥取大学医療技術短期大学（現・鳥取大学医学部保健学科）を卒業後、とりだい病院に入職した。

「私は現実路線というか、現実的に考えるタイプ。看護婦に憧れてとかそういうエピソードはなくて、（学校と病院が）

家から近かつたこと、そして仕事として

生物学をやりたかった」

2001年から2003年まで千酌はワシントンDCの郊外にあるアメリカ国立衛生研究所に留学している。

「そのとき丁度、ヒトのゲノムが解析されたんです。それからがん治療が急に変わっていました。そこでヒトの色々な細胞の基礎研究をやりました。最近まで、がんの研究と感染症の二刀流だったんです。

米子市生まれの上灘は、鳥取大学医療技術短期大学（現・鳥取大学医学部保健学科）を卒業後、とりだい病院に入職した。

「私は現実路線というか、現実的に考えるタイプ。看護婦に憧れてとかそういうエピソードはなくて、（学校と病院が）

家から近かつたこと、そして仕事として

生物学をやりたかった」

2001年から2003年まで千酌はワシントンDCの郊外にあるアメリカ国立衛生研究所に留学している。

「そのとき丁度、ヒトのゲノムが解析されたんです。



じまりは鳥取大学医学部出身の女性医師からの助けを求める声だったという。

新規医療研究推進センター助教の藤井政至はこう振り返る。

「マスクは花粉症用、ガウンはゴミ袋を被らなければならぬ。医療従事者を守るために資材が足りていないような状況だというんです。特に不足しているのは

「最初に頼まれたのは、3Dプリンタでフレームを作り、それにクリアファイルをつけてくれないかと。ところが、調べてみると（フレーム）素材である樹脂はこの時点で3か月待ち。もともと在庫を抱えない（流通の）仕組みなので、（納入時期は）さらに延びていくだろうという見通しでした」

また、3Dプリンタは大量生産に適していない。需要を考えれば、金型製作が必要だった。それにコストや時間がかかる。そこで藤井は、フェイスシールドはプラスチック製でなければならないと

いう既成概念を捨てて、紙素材で代用できないかと考えた。

「（サンパック）の森和美会長に電話して、紙で作りたいんですけど相談したんです」

それが4月10日のことだった。パッケージや商品開発企業のサンパック

クは、月1回開催の看護部を中心とした「ものづくりワーキング」に参加していた。紙の専門家である森は、以前から殺菌や洗浄による使い回しの製品が医療現場に多すぎると感じていた。

「紙は手に入りやすく、安価で大量生産が可能。そしてディスポーバブル（使い捨て）なので、衛生的です」（森）

同時に藤井はメディビートの山岸大輔社長にも電話を入れている。医療機器の開発サポート、販売を目的として2019年に設立された鳥取大学発ベンチャー企業である。

開発前に販売ルートまで決めることが大切なのだと藤井は言う。

「案を出して試作して何かを作るのは楽しい。しかし出来上がった後、販売して現場まで届けて、さらに利益まで出すのは難しい」

企画、製作、販売——この三分野の担当者が初めて集まつたのは、呼びかけの2日後、4月12日。場所は倉吉市にあるサンパックの5坪ほどの小さな事務所だった。

藤井たちの出した案を元に、森がカッターで紙を切り出した。作っては試し、作っては試しの連続だった。3日間で作った試作品は約100個にもなつた。

飛沫防御という機能に加えて、短時間で大量生産が可能であることも重要だった。そこでステープラーや糊など生産工程が増える要素は排除した。たどり着いた。

「生産から販売まで一つにつながったチーム」（写真左から山岸大輔、藤井政至、森和美）

たのは透明なポリプロピレンシートを貼った紙を手で折り、組み立てるスタイルだった。どうしても紙は弱い。そこで強度を持たせるために側頭部に細かい折りを入れた。

また、視界の歪みを防ぐため、透明シート部分が垂直になつていて。これは医師である藤井のこだわりだった。顔と製品の隙間を広く取ることによってN95マスクをしていても干渉せず、フィルムが曇らない効果もあった。

製品名はORIGAMI（オリガミ）と名付けられた。本号の表紙で感染制御部の千酌が装着している。4月25日に初回3万枚の量産が開始。4月28日、鳥取県と東京都に1万枚ずつ寄贈し、残り1万枚が販売された。現在までに（2020年8月）30万枚以上を出荷している。

短期間にORIGAMIを販売までこぎつけた背景には、とりだい病院のイノベーション支援体制がある。時計の針を少し戻す。

2013年6月、第二次安倍内閣は「日

本再興戦略」として金融政策、財政政策、成長戦略の「三本の矢」を掲げた。いわゆるアベノミクスである。成長戦略の中には「健康・医療産業」が含まれていた。医療機器開発を戦略産業として育成するというのだ。

この動きに当時のとりだい病院長、北野博也が反応した。とりだい病院では前年2012年に新規医療研究推進センター（当時の名称は次世代高度医療推進センター）を立ち上げていた。センターの植木賢教授が発案したイノベーション人材を育成する教育プログラム「発明楽」をベースに、地域を巻き込んだ医療機器開発を目指したのだ。植木は言う。

「とりだい病院は質の高い医療を行なっている。そういうコアコンピタンス（能力）を使って、プラスアルファの価値を出せないだろうかと考えました。そこで大学病院を開放して企業の方に現場に来ていただき、ニーズをもとに医療機器などの開発から製品化までを共にやつていこうことに取り組んだのです」





ルポ・院内保育

「すぎのこ保育所」の 穏やかな夜

ももちゃんとみゅちゃんの「お泊まり」に密着

取材・文 三宅玲子 写真 中村治

大学病院は24時間体制で治療にあたっている。そんな医療者を支えるために設置されたのが院内保育所だ。職員の勤務時間を優先し、子どもたちを温かく引き受ける。「真夜中の陽だまり ルポ・夜間保育園」（文藝春秋）の著者、ノンフィクションライターの三宅玲子がすぎのこ保育所に密着取材した。

雨あがり、湿り気を帯びた暗がりに木々の濃い匂いが立ち込めていた。

病棟や研究棟を抜けた南の端、城山の木々を背中に、すぐ目の前には湊山公園。山のふもとの保育所には今夜、小さな明かりが灯り続ける。

ももちゃんはつき組のお部屋でぐつぐつと眠っている。隣で寝息を立てているのは妹のみゅちゃん。

ここはすぎのこ保育所。鳥取大学医学部附属病院の職員の子どもたちを預かる院内保育所だ。

ももちゃんのママは看護師。

ももちゃんは1歳からこの保育所に通っていて、お泊まりもその頃から。前は悲しくなってお布団でしくしくしてしまった。でも、3歳になつたももちゃんはお泊まりを楽しみにするようになつた。「ママと離れるの、さびしくないの?」とママが心配してしまうくらいに。

張り切るのは、妹のみゅちゃんもいつるに水性マジックで絵を描いた。ももちゃんは隅っこでテーブルでマジックを



登園する二人。ママと別れて妹のみゅちゃんは泣いてしまった。

「きょう、ももちゃん
おとまりなんだよね」

この日、ももちゃんとみゅちゃんがママに連れられて登園したのは15時半。ママは敷地内のとりだい病院2A病棟に勤務する。翌朝9時までの勤務が始まるのだ。

ママとお別れた二人は担任の先生に連れられてそれぞれのクラスに向かった。つき組ではお昼寝がすんで、おやつの準備をしていた。

「ももちゃん、まつてたよ。きょう、ももちゃんはおとまりなんだよね」

お友達がももちゃんに話しかけた。「そう、きょうね、ももちゃん、おとまりなんだよ」

ちよつと得意そうだ。

担任の中村亜希子先生が声をかけた。

「ももちゃん、工作をしよう」

午前中、つき組のみんなはペーツボ

人近い職員が働いている。未就学児を育

てながら働いている人は珍しくない。す

広げて水色や黄色でカラフルな模様を描き込んでいく。ずいぶん遅れて登園したのに、ももちゃんはすっとクラスに溶け込んでいる。それを見た私がおや?といふ顔をしていたのだろう、先生はこう説明してくれた。

「朝の会で、今日はももちゃんはお泊まりの日だから、お昼寝の後に来ると子どもたちに伝えてあります。みんな、よくわかっているんですよ」

同じ頃、妹のみゅちゃんは、そら組の畠が敷かれたコーナーにいた。先生が14人のお友達と歌遊びを始めている。

立ち上がって踊り出す子や体を揺らす子に混じって、みゅちゃんはじっと先生の歌う口元を見つめている。みゅちゃんはたくさんお話をすると、でも、いろんなことがわかっている、そんな表情だ。

鳥取大学医学部附属病院には1900人

この保育所は看護師や医師を中心に、3歳の子どもたちを引き受けている。

産後数カ月で復職する女性医師もいるため、勤務中に授乳できるよう保育所には授乳室が設けられている。

こうした恵まれた環境が整うには50年近く積み重ねがあった。

昭和40年代、女性が働くことに社会の理解がない中、看護職は女性に開かれた数少ない専門職だった。育児休暇制度はまだなく、8週間の産後休暇を終えると職場復帰しなければならない。赤ちゃんを預ける先がないために優秀な同僚が職場を去つていくことに危機感を持った看

護部が声をあげ、1972年、敷地内の看護学生寮の一室で1歳までの赤ちゃんを預かる授乳室が始まった。子どもたちが楽しく過ごせるようにと、親たちが自宅からおもちゃを持ち寄り、父母会では資金集めのためにバザーを行なった。

その後、平成の半ばを過ぎてから、民間企業に委託し、現在の保育所運営が整った。お泊まり保育が始まったのはその頃だ。

お泊まり保育で育つた園児が小学校に入学したことから学童保育のお泊まりも行なっている。

副看護部長の大東美佐子さんは、大学

病院で働く魅力のひとつは、意欲さえれば専門性の高い仕事や先進医療など成長する機会に出会えることだという。そのため大切なのは継続である。働き続いているよう、ワークライフバランス環境の整備が必要だ。

「子育てや介護など、人生の大きな出来事を個人で解決するのではなく、職場が支えている、大事にされていると実感してもらえたと思います」

晴れた日は湊山公園まで
散歩、年長組は魚釣り。
豊かな米子の自然に
囲まれた毎日



こーって来たんですよ。めっちゃかわいいです

畠田真基先生は27歳。保育短大で学んだが、卒業後は別の仕事に就いた。それでも保育の仕事が諦めきれずにいたところへ、この保育所に就職がかなった。

「毎日、めっちゃ楽しいです。やっぱり自分のしたい仕事ができるってうれしいです」

お天気の日は目の前の湊山公園に散歩に出かける。中海は歩いて10分とかからない。年長組になると、釣りが好きな主任保育士の岩崎慎也先生が手作りした竹の釣竿で魚釣りをする。子どもたちは米子の豊かな自然を満喫している。

18時になつた。ホールにいるお友達は残っている20人ほどの一人ひとりの名前を先生が呼んだ。

ももちゃんは「はーい」と手をあげると、妹の手を引いて自分のお膝に抱っこした。

小さな保育室でお夕食が始まった。両親が医師で今日のお迎えはおとうさんといる子たちだ。家で夕食を食べる子も、おにぎりなどの補助食をとることができる。夕食は米子市内の仕出し屋から届いたお弁当だ。

大きい子と小さい子が一つのテーブ



ホールにお泊まり担当の二人の保育士がやつてきた。姿を見つけたももちゃんがさつと立ち上がってリュックを背中に背負うと、植田節子先生と一緒に歩き出

した。植田先生は昼間の保育所で長く働いてきたベテランだ。

お泊まりのお部屋に移動する。今日のお泊まりはももちゃんとみゆちゃんの二人。ももちゃんのつき組がお泊まり保育のお部屋だ。いつもの部屋が夜になると広々としている。

そこへ、もう一人の保育士、庄司美穂先生に抱っこされてみゆちゃんがやつてきた。庄司先生は病児保育やお泊まり保育の経験が長い。みゆちゃんはホールから移動するとき、一瞬、おうちに帰るのかと勘違いして泣いてしまつた。

おねえちゃんを見つけて安心したのか、ももちゃんに手を伸ばしたみゆちゃんに「だいじょうぶだよ」とももちゃんが声をかけた。

ももちゃんはままで抱っこして「あらー、ねんねしちゃったのね」と話しかけた。お人形を抱いてこれからお使いに行くらしい。かと思うと、「あらいもの、するわねえ」と、おかあさん役のももちゃんは忙しい。

見守る植田先生は、お野菜を集めたり、お人形の服をたんだりしながら、脇役で参加している。

みゆちゃんは生きものの写真絵本が好き。昆虫の絵本を本棚から取り出してふたつの手で抱えて庄司先生のところへ運ぶと、彼女の膝にすっぽりと座つた。

20時、お風呂の時間だ。

つき組の隣に設えてある小さな浴室で、ももちゃんがまず体と髪を洗つてもらう。お湯が顔にかかると、ももちゃんは泣かない。

先にきれいになつたももちゃんがお湯につかると、洗い場でみゆちゃんが体と髪を洗つてもらう。おねえちゃんのお手本を見ていたみゆちゃんは泣かない。

ももちゃんはみゆちゃんがいるから頑張れる。みゆちゃんはおねえちゃんの姿があると安心する。

きれいになつて、おねえちゃんと並んでお湯に浮かんだおもちゃに手を伸ばした。温まって、二人ともいいお顔。

パジャマに着替えて洗面台で歯磨きをする、おやすみの支度が整つた。

みゆちゃんは庄司先生のお膝で絵本の続きを読むでもらつていてうちに眠りに落ちた。

ももちゃんはアニメ「ブリキュア」の

してお仕事してもらいたいという気持ちです

医療職の親から子どもの体調のこと

で相談されることがある。そんなときは、

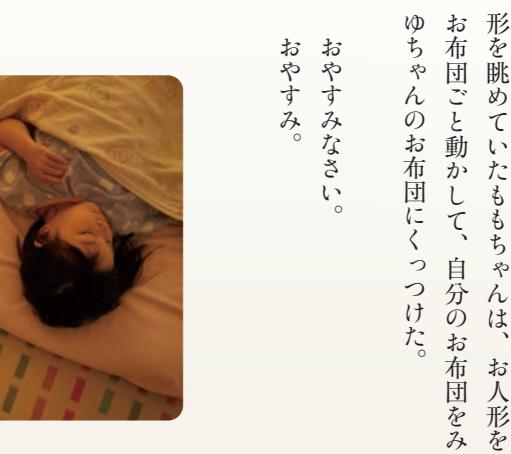
「お医者さんや看護師さんでも、ご自身の親のことになると不安になられると微笑ましく思う。

65ピースのパズルを広げている。端っこから一つひとつ、黙々とピースを埋めていく。向かい合って座る植田先生が、ああ、そのピースはまたねえ、と声をかけながら見守っている。30分ほどでパズルは完成した。ももちゃんは充足した表情でパズルを棚にしまった。

みゅちゃんはお布団で眠っている。ももちゃんはお人形ふたりをお人形のお布団に寝かせて、みゅちゃんと自分のお布団の間に置いていた。少しの間お人

おやすみはお人形ふたりをお人形のお布団に寝かせて、みゅちゃんと自分のお布団の間に置いていた。少しの間お人

おやすみはお人形ふたりをお人形のお布団に寝かせて、みゅちゃんと自分のお布団の間に置いていた。少しの間お人



形を眺めていたももちゃんは、お人形をお布団ごと動かして、自分のお布団をみゆちゃんのお布団にくつつけた。

おやすみなさい。
おやすみ。



こともあるという。

植田先生は、夜の間のおかあさんの的存在でいたいと考えている。

綱渡りの毎日でも可能な限り規則的な生活を心がける

同じ頃、姉妹の母・西村萌夢さんは一般病棟2Aでリーダーとして夜勤についていた。眼科、口腔外科、脳外科を担当するフロアだ。20分ほどナースステーションで話を聞くことができた。

——看護の仕事に就いたのはなぜですか？

きつかけは、小さい頃、妹が喘息で入院を繰り返していて、看護職の人たちの力を感じたことです。人の役に立てる

看護師になりたいと思いました。

——お子さんを育てながら仕事を続けています。

お迎え時間の延長を受け入れてもらえたこと、土日保育が可能であること、お泊まりができること、そして病児保育が

できることが大事かなと思います」
お泊まり保育には小6と小5の兄妹もいる。おかあさんは救命救急センターで働く看護師だ。思春期に差しかかったこの兄妹がお泊まりの日は、主に庄司先生が関わる。ほとんど対等の関係です、と風呂に行くこともあります。気持ちを受け止めることができた。

「お兄ちゃんがちょっと機嫌が悪いような日は妹さんがきちんとしているとか、兄妹で支え合っているんですよ」

庄司先生は子どもとの約束を守ることを大切にしている。

「お兄ちゃんがかくれんぼが好きなんですが、寝るまでにできなかつたことがありました。明日の朝やろうと約束して、朝起きたら真っ先に三人でかくれんぼしました」

小さな灯りで植田先生と庄司先生は二人の連絡帳に今日の様子を記していく。

合間に呼吸を確認して記録する。呼吸の確認は5分ごとに記録するため、3時間交代で仮眠をとりながら行つ。



母の西村萌夢さん。この夜は深夜に2時間の仮眠をとることができた。

あること。この4つがあるおかげで成り立っています。

子どもとの生活もありながら勤務していることで、自分の責任感や仕事への誇りを確認できるところもあります。仕事をがんばっていられるから子どものこと大切にできるというのはあるような気がします。

——大変だったことはなんでしょう？

一人めのときはひつきりなしに風邪をひくので、月の半分は病児保育にお世話になつたり、早退したりしていました。子どもからもう風邪で自分も体調が悪くなることはしょっちゅうでした。

——それでも仕事を続けるのはなぜでしょう？

患者さんが治るにしろお亡くなりにならにしろ、その過程に一人のナースとして傍らでお役に立てていることでしょう。患者さんから「あなたの顔が見られてもよかつたわ」などと声をかけていただけのはほんとうにうれしいことです。

——多忙な看護師と育児の両立は綱渡りの毎日だ。

会社員の夫も夜勤のある仕事のため、平日の生活は西村さんが中心になつて回している。西村さんの夜勤は月に三回ほど。

できる限り規則正しい生活を送るよう

にしている。夜勤のない日は帰宅するとすぐにお夕飯を食べ、お風呂に入り、絵本を読んで21時には子どもたちと一緒に

寝る。翌朝は4時起きで朝食と夕食の準備。食材は宅配で注文し、平日は買い物には行かない。

「どうすれば、子どもたちがお泊まりのときに不安にならないでいられるかなつて考えたんです。お泊まりの夜もうちで過ごすときも同じような時間の過ごし方をすれば、子どもたちが混乱しないで受け入れられるんじやないかなあと思って」

西村さんは笑顔できびきびと病棟の現場に戻つていった。

——聴診器で遊ぶのが好きな、ももちゃんの将来の夢

ももちゃんは朝6時、辺りはもう明るい。ももちゃんとみゅちゃんは一度も目を覚まさずに朝を迎えていた。先生が「おはよう」と呼びかけ、二人が起きた。

顔を洗つてお着替えをして、二人で朝ごはん。二人分のパジャマをももちゃんがリュックにしまった。

7時、ホールに行くと、朝担当の先生が二人を迎えた。植田先生と庄司先生は12時間の勤務を終えて帰途につく。

8時、子どもたちでホールはあふれている。

9時、みゅちゃんのそら組がお部屋に移動し始めた。何があつたのか、みゅちゃんが泣きじやくつている。ももちゃんが氣づいて駆け寄つた。ももちゃんがみゅちゃんの手をとつて、お部屋へと歩き出

いた。

——おやすみなさい。
おやすみ。



笑顔で保育所を後にする三人。

文 三宅玲子

1967年熊本県生まれ。「ひとと世の中」を中心にオンラインメディアや雑誌、新聞にて取材、執筆。近著『真夜中の陽だまりルポ・夜間保育園』(文藝春秋/2019.09)は、福岡・中洲に近いどろんこ保育園に4年近く通つて書いた。<https://www.miyakereiko.com>



「おおきな木」

シェル・シルヴィア・スタイン 作・絵
篠崎書林

とりだい病院一筋のベテラン、渡邊仁美さんの師長室の本棚には、医療、看護の専門書のみならず、マネジメントや名言集など様々な書籍が並んでいる。そんな渡邊さんの「人生を変えた一冊」は意外にも絵本——シェル・シルヴィア・スタインの『おおきな木』だった。

この絵本は、幼い男の子が成長し、老人になるまで、温かく見守り続ける1本の大きなリングの本の話である。木は、果実や枝、幹のすべてを彼に与え、最後は切り株になってしまふ。そして「木はそれでうれしかった」と終わっている。無償の愛や慈愛を描いた作品である。

渡邊さんがこの本と出会ったのは中学生の頃だった。当時は本より音楽が好きで、友達から借りてきたピートルズのLP盤を聴いていた。

この絵本は、幼い男の子が成長し、老人になるまで、温かく見守り続ける1本の大きなリングの本の話である。木は、果実や枝、幹のすべてを彼に与え、最後は切り株になってしまふ。そして「木はそれでうれしかった」と終わっている。無償の愛や慈愛を描いた作品である。

この絵本は、幼い男の子が成長し、老人になるまで、温かく見守り続ける1本の大きなリングの本の話である。木は、果実や枝、幹のすべてを彼に与え、最後は切り株になってしまふ。そして「木はそれでうれしかった」と終わっている。無償の愛や慈愛を描いた作品である。

そんなある日、1歳下の妹が音楽に興味を示したので、「これいいよ」と貸した。すると本好きだった妹は、代わりに「これがいいよ」と『おおきな木』を渡邊さんに渡したのだ。絵本を読み終えると涙が流れた。

「相手に求める前に自分が自立していい」とダメだ。自立していなければ、人にも与えることはできない

絵本がきっかけで、渡邊さんは「自立」に目覚めていく。自立=仕事に就くことだと考えた彼女は、得意だった数学と理科の教師を志す。しかし受験に失敗。そして看護師を選んだ。

「あの頃は、注射を打つのがすごい嫌でね」と、彼女は学生時代を振り返る。看護師として自立したい。そのためには自分の力を付けなければならぬと、知識と技術の習得に励んだ。

やがて看護はマニュアル通りにただやるのでなく、患者さんに合った看護を「創造」しなければならないと思うようになった。現状を分析し研究、他に適した手法があれば実践、実証していく。悩んだ時は研究論文や総説など文献を漁った。そしてそこから理論や概念の原著をたどった。原典にこそ、全てのエッセ

文・中原由依子 写真・中村治



カニジルご意見箱 通称 力ニ箱

編集から

Q 表紙のデザイン、安定してきましたね。でも1号はまつ毛のエクステが、4号は眉とアイラインが…つまり女性の場合、お化粧がますます目に飛び込んでいます。表紙写真に適したメイクをプロにしてもらったほうが「自然」に見えると思います。

A 貴重なアドバイスありがとうございます。お化粧がすこし目立ってしまっているという事でどうですか~(汗)。普段、医療現場の女性たちは、ユニフォームとマスクをつけています。でも私は、まだ先があつて、この木から新しい木が生えてくるところに、ビートルズのレコードを貸した妹は、姉以上にビートルズ、そして英語にとりつかれ、末はイギリスに永住してしまった。

あの時の本とレコードの交換は互いの人生の分岐点となつたのだ。

カニジルへのご意見・ご感想を募集中!



www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/kanijiru/e/

とりだい病院ホームページからもアクセスできます。

トップ>病院の紹介>当院の広報物>読者アンケート回答フォーム

採用された方には
カニジル特製ステッカーを
プレゼント!!!



※ステッカーの種類はランダムです。

とりだい病院広報がスラスラ回答

大学病院の謎

教授回診って、何のため? 本当に必要なの?

教授回診と聞いて多くの人が頭に浮かべるのは、ドラマ『白い巨塔』のオープニングシーンでしょうか。教授を先頭に医師たちが列をなして廊下を歩く様子は印象的で、ドラマでは、教授回診が教授の権威の象徴として描かれています。大学病院に入院したら、こうした教授回診が見られるかもと期待する人、あるいは不安に思う人もいるかもしれません。実際のところ、ドラマのような回診が本当に実行なわれているのか、そしてその目的は何か、教授にインタビューしてみました。



患者さんの様子を見て、治療の方向性を確認するのが第一の目的

山本一博教授（循環器・内分泌代謝内科）は、教授回診の目的についてこう話します。「治療の方向がうまくいっているかどうか、カルテ上の検査データと主治医の説明だけでは患者さんの状態が十分にわからないことがある。年齢は同じでも健康状態は人それぞれなので、直接診てみないとわからない。治療の方針がその患者さんに適しているのか、あるいは変更すべきかを判断するためにも回診の役割は大きい」

患者さん一人ひとりの病状の把握や治療の方向性は、診療科で開かれるカンファレンス（会議）で話し合われます。そのほか主治医や病棟責任者から相談を受け、ディスカッションすることもあるそうです。

「カルテを見るのと患者さんのそばに行って実際に様子を見るのではやっぱり違う。主治医以外の医師が週に一度でも患者さんの顔を見ることで、複数でチェックすることができます」

ただ、患者さんは医師を引き連れて回診に来ることはストレスにならないか聞いてみると「大人数ではなく、原則、僕と病棟責任者、それと研修医の5、6人で回る。説明やディスカッションもベッ

ドサイドでは行わず、扉を閉めて廊下でするなど、患者さんの負担にならないように配慮しています」

実際、回診の様子を見てみると、白い巨塔のイメージとはまったく異なり、列をなして廊下を歩くこともなく、日常の病棟の風景と何ら変わらないものでした。

患者の中には、学生が見学することに抵抗を感じる人がいるとよく聞きます。その点について尋ねてみると、「回診に学生が加わる場合、基本的に病室には入れません。例えば、聴診器で診察した時に心臓の雑音が聴こえることがある。そんな時は患者さんの許可が得られれば、勉強のため学生にも胸の音を聴かせてもらうことはあります」との答えが返ってきました。患者さんが負担に感じるなら、遠慮なく断つても問題ないとのことでした。

治療・教育・研究。 研修医の教育も大学病院の使命

取材の日、山本教授と病棟責任者の柳原清孝医師、そこに主治医とともにそれぞれ担当の患者さんを受け持つ研修医3人が緊張の面持ちで加わっていました。

「病室の前で自分の担当患者さんについて手短にプレゼンテーションしてもらう。先輩医師に指示されたことをただこなすのではなく、なぜその診断に至ったか、なぜその治療方針が立てられているか、彼らがきちんと理解しているかを確認する機会でもあるんです」

研修医が山本教授にプレゼンしている様子をそばで見ていると緊張でうまく説明できなかったり、「その症状を改善するためにどうすればいいと思う?」という質問にすぐに答えが出ないという場面も。

回診は大学病院独特のものではなく、どこの病院でも行なっているそうです。それは海外の病院でも同様のこと。教授回診は、決して儀式めいたものではなく、第一に患者さんのため、そして若い医師を育てるために行なっています。

この連載では皆さまからの質問を受け付けています。

大学病院、とりだい病院について疑問・質問のある方はとりだい病院 広報・企画戦略センターまでお送りください。

疑問・質問はコチラ!

e-mail byouin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp

「経済・観光とコロナ克服は二者択一ではない。」

Tottori Breath

新型コロナウイルスのニュースが毎日流れる日常。ニュース取材の現場に身を置きながら、ある程度、長期の戦いになる事は覚悟をしていました。しかし、一方で日本の医療レベルの高さやウイルスの特性を勘案し、夏場には、少し落ち着きを取り戻すのではないかとも感じていた。実際、緊急事態宣言の解除後、徐々に飲食店に客足も戻り、ステイホームと三密回避、マスクと消毒の徹底の成果もあって感染者は低下。経済も少しずつ回り始めていた。

しかし、その後、夜の街でのクラスター発生と感染経路不明者が激増。東京都や大阪府のみならず、感染防止への取り組みの緩みからか山陰両県や地方でも感染者が増え、心配な状況となっている。やはり、この感染症の克服は短期間では難しく、一筋縄ではいかない。

「感染リスクを少なくし、その範囲の中で経済を回すべき。経済破綻が本格化する」という意見と「高齢者の重症化リスクや医療崩壊の危機を考え、行動制限や自粛をもつと強化するべき」という考えがぶつかり合う。どちらの意見も私は正しいと思うし、答えはそう簡単ではない。

経済的に見れば、2008年9月、リーマンショック（グローバル金融危機）が日本を襲つた翌年の09年7月には、失業率は5.5%と戦後最高水準に達した。今年、日本の

経済悪化状況はこの時を上回る可能性が高く、265万人が全国で職を失うという予測もある（野村総研調べ）。

私は今年6月から境港市観光協会会長に就任した。境港市を代表する観光スポット、木しげるロードには、現在177体のキャラクター・ブロンズ像が並ぶ。観光客入り込み数は年間300万人以上。山陰観光の優等生だった水木しげるロードもコロナ禍の中で閑古鳥が鳴く。シャッターを閉めている店も目立つ。しかし、観光協会は市と商店街の協力を仰ぎ、消毒や検温、マスクの徹底、抗菌テープなどの対策で、7月20日より「妖怪スタンプラリー」の再開を決断した。

大切なのはプロの経験と目線でギリギリその間を狙うこと

ジエットコースターを後ろ向きに走らせ、V字回復を成功させた、元U.S.J執行役員で現在、株式会社『刀』CEO森岡毅さんは「コロナ禍に打ち勝つためには、ゼロか百かではなく、プロとして力を尽し、その間の解を見つけていくべきだ」と語る。「ゼロか百か」という極端な選択ではなく、プロの経験と目線でギリギリその間を狙いつつ、結果を出していくべきと説明する。「守るべきは何か。思考

停止に陥らず感染を抑え込み、同時に経済を回していく。経済も病気の克服も、どちらも命に直接影響があるのだから」と。とりだい病院の命を守る役割や仕事を同じ考えの上に立つ。コロナとの戦いを続けながら、他の多くの病気とも向き合わなければならぬ。大切な病院の使命がそこにある。最前線の医療者の戦いにもどうか目を向け、よく知つてほしい。

もう一度言う。「二者択一」では今はない。この困難を乗り越えるには、思考停止に陥らず、知恵を結集し冷静にバランスを取り続けること。その判断の源は、正しい知識と見極める力であろう。本誌「カニジル」の題名に込められたもう一つの想い、「如何に知るか」に通じる考え方だ。



結城 豊弘
読賣テレビ放送株式会社
報道局兼制作局 チーフプロデューサー

1962年鳥取県境港市生まれ。読売テレビ報道局兼制作局チーフプロデューサー。「そこまで言って委員会NP」「ウェークアップ!ぶらす」等の取材・番組制作を担当。とりだい病院特別顧問と本誌スーパーバイザーを務める。鳥取県アドバイザリースタッフ。今年6月、境港市観光協会会長に就任。



初めて芝生の上でサッカーをしたのは、小学校四年生のときだった。

日本リーグの東洋工業対古河電工戦（現在のサンフレッチェ広島対ジェフユナイテッド市原・千葉）の前座で、鳥取市選抜としてピッチに立つたのだ。大人のグラウンドは広く感じ、芝生の上をボールが滑った記憶がある。先日、その試合に出場していた方を取材する機会があつた。ぼくはたぶんサインを貰いに行つたはずですと言うと、彼は照れくさそうな顔になつた。不思議な縁を感じた。

人生の大部分は運と縁で決まるところは考へてゐる。時に、自分が予想していなかつた方向に、すつと背中を押されるような感覚になることもある。

人生の大部分は運と縁で決まるところは考へてゐる。時に、自分が予

想していなかつた方向に、すつと背

だつたのかと、ふと思う。

編集長 田崎健太

編集 三宅玲子

カニジル初登板では10人を超える女性とお話する機会がありました。気さくで穏やか、でもお話をうかがっていると、公平性を大切にする芯の強い横顔がのぞきました（編集チームの4人も）。じっとりと柔らかい米子弁が心地よく思い出されます。こんなやさしい言葉で語りかけられた子どもたちがやさしい大人になるでしょうね。

編集 大川真紀

担当したイノベーション特集。どの製品にもドラマがあり、濃密な取材でした。紙面からあふれたエピソードも、ご紹介できないのが勿体ないものばかり。共通していたのは、製品について語る皆さんの目がキラキラ輝いていたこと。本誌写真でも発光しているのが伝わるのではないかでしょうか。

編集 中原 由依子

夜間保育の姉妹の物語、いかがでしたか？私は、妹を守り、お母さんに心配をかけまいとする姉のもちやんの行動と顔つきが印象深かったです。わがままなし、ぐずりなし。そんなももちやんを保育所の先生たちは優しく見守っておられます。子供って、親だけでなく、いろんな人の助けや関わりがあって成長していくもの。私も私の子供もそうだったなと思われました。

表紙デザイン 三村 漢

オンライン進行の仕事も徐々に増えてきました。ただ、そうすると、どうしてもチームの統制がスムーズに行かず、「体温」が上がらないまま完成になる仕事をいくつか目にしてきたのですが、そこはさすが「カニジル」チーム。それぞれの専門家が、役割を十二分に発揮して、率直な意見を言い合いながら、血の通った一冊に着地することができます！

編集 西海美香

汗っかきで困ります。特に顔。何もしていないのに滝のように汗が流れます。冬場でも汗をかくのに夏はもうどうしようもありません。マスクを着けて過ごす今年の夏はいっそう辛いです。何かの病気でしょうか。痩せたら汗をかかなくなるでしょうか。そんなことを考えていたら、今度は冷や汗も出でてきます。でもすこぶる元気です。

ページデザイン 矢倉 麻祐子

5杯目はインパクトのあるマスク姿の表紙になりました。鳥大の人々ではもちろん新型コロナウイルスについて語られています。そんな力強い表紙の裏、トリビートでは、たくさんのとりだいスマイルを集めました♪（撮影前後はもちろんマスクをしていますよ）先の見えない暮らしの中でも、とりだいには笑顔がたくさんあふれています。

〈飛鳥の森とは〉

鳥取大学医学部キャンパス内にある、学生や患者さんが集う憩いの場。「飛鳥(ひちょう)」という言葉には、鳥取大学の一層の飛躍を願う気持ちが込められている。



〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地一
鳥取大学医学部附属病院 広報・企画戦略センター内「カニジル」編集部
TEL 0859-38-7039 / FAX 0859-38-6992
MAIL byouin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp



フォトグラファー 中村 治が切り取る
とりだい病院の日常

トリビュート

中村 治

1971年広島生まれ。成蹊大学文学部を卒業後、中国北京に2年間留学。ロイター通信社北京支局の現地通信員としてキャリアをスタート。ポートレート撮影の第一人者である坂田 栄一郎氏に師事。2006年に独立、現在は雑誌広告等のポートレート撮影を中心に活動している。中国福建省の山間部に点在する客家土楼とそこに暮らす人々を撮影した写真集『HOME』(リトルマンブックス)が好評発売中。



check!
とりだい情報
日々発信中！

@ToridaiHospital
www.facebook.com/ToridaiHospital/

鳥取大学医学部附属病院
カニジル第5号